

大日向雅美
恵泉女学園大学・大学院教授
(子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

本日はNPOと行政が連携して、地域の子育て支援者を養成し、女性の社会参加を援助する新しい実践についてご報告いたします。

この企画の構想は、一昨年の7月、この視点・論点でお話いたしました。2年近い準備期間を経て、今年の1月、NPO法人〈あい・ぽーとステーション〉が東京都港区で講座をスタートさせました。そして、先週、「子育て・家族支援者」第1期生37名が誕生しました。

この養成講座の目的は、2つあります。第1に、地域の子育て力の向上を図ること。第2に、子育て支援を女性の社会参加につなげること、です。

第1の「地域の子育て力の向上」ですが、昨年の暮れ、政府が「子ども・子育て応援プラン」を策定し、子育てに喜びを見出せるよう、社会全体で、地域の皆で子育てを支える必要性を強調しています。

子育ては家庭や母親ひとりが担うには大変負担の大きい仕事です。しかし、いざ地域で支えようと言っても、地域が崩壊して久しいことに加えて、子育てに対する価値観や方法は、ひとそれぞれです。年配者と若い親との間には、世代の差、生きた時代の影響も小さくありません。昔の子育ての常識が通用しないこともあります。「支援をしてあげる」のではなく、地域に暮らす者どうし、支えー支えられてお互い様という自然な形で、親子に寄り添う姿勢が必要です。

こうした子育て支援の考え方を理解した人がたくさん増えてこそ、地域の子育て力は高まるのです。今、各地に子育て支援センターや子育てひろばが増えていますが、子育て支援は一つの建物の中で行うだけでは充分ではありません。どこに住んでいても、センターに来ることができない親子にも、支援が届くよう、地域の随所で活動する人が必要です。

この講座の目的の第2は、女性の社会参加支援を目指すことです。育児ストレスや不安に悩む母親が増えています。子育ての大切さも、子どものかわいさも十分理解している。でもなぜか満たされない、不安やいらだつ思いを母親たちは訴えているのです。

子育て中は無論のこと、子育てが一段落した後も、社会からシャットアウトされがちだからです。社会の中に居場所が見つからないというあせり。加えて経済力のない不安もあります。雑誌1冊、自分のお金で買う自由がほしい、教育費や生活費を夫にだけ託す不安もあります。

しかし、働きたいと思っても、子育てのために数年間、ブランクがある女性の再就職は厳しいのが現実です。

子育ては大切な仕事だと人は誰もが言いますが、その通りだと思います。人生の少なくない年数をかけた子育ての経験を社会が活かし、有償の活動として、働く場を創設すべきではないでしょうか。

こうした子育て・家族支援者養成の目的を達成するための講座は、内容的に高度なものとなりました。乳幼児保育・教育の専門家が講師を務め、地域の子育て支援者として必要な心と知識、技術の習得を盛り込んでいます。

同時に保育園や子育て支援センターでの実習もあります。実習にあたっては、港区内のすべての公立保育園が協力してくれました。

講義と実習を含めると全部で30コマ、講座期間は毎週1日、3ヶ月間に及びましたが、当初は、「ここまで本格的な講座は必要ない。主婦が受けるのだから、3、4回で済むような簡単なものでなくては受講者は集まらない。地域の子育て支援になぜそんなに専門的な学びが必要なのか」といった声も少なくなかったのですが、地域の子育て支援の難しさ、社会参加の機会を期待する女性たちの胸のうちをよく知らない人々の声だと思いました。

いざ募集を開始してみると、申し込みが殺到しました。

「こういう本格的な講座を待っていた。自分の子育て経験を地域で活かしたい。それが仕事にもなるのは、とても嬉しい」と期待に胸を膨らませて集まった人々の受講態度は、実に真剣そのものでした。

8割以上の方が講義も実習も1日も欠席することなく履修を終えて、晴れて認定資格を取得しましたが、この方々の思いをレポートの中から一部ご紹介しましょう。

・5人のお子さんを育てた主婦の方です。

子育て中もずっと、「自分さがしをしてきました」。昨年、末っ子が中学生に。まだまだ私には気力も体力もある。今からでも遅くない。そう思い、就職活動をして、「働いた経験はありますか？ パソコンはできますか？ 年齢がちょっと」と言われる。子育てをこんなに頑張っ、一区切り着いたと思ったら、56歳。悲しすぎます。私のように子育てが一段落した人の経験を活かす場があるということに胸躍りました。社会に役立つ。有償活動であることにさらに気持ちが引き締まります。

・もうひとり、子育て中の若い母親の声です。

講義や実習の日に、子どもが急に熱を出したり、園の行事が重なったりと、ピンチの連続でした。でも、幼稚園のお母さん仲間が応援してくれました。夫も仕事を休んで協力してくれました。こんなことははじめてです。信じられない気持ちでした。今回の受講は、夫との関係や地域の子育て支援の有難さと大切さを実感する機会となりました。

こうして、「子育て・家族支援者」が誕生した訳ですが、講座の本当の役割はこれからです。子育て支援者の養成は認定をすれば終わりではありません。学んだことは活動してこそ磨かれます。そ

のために活動の場を提供し、また活動や学習内容をバックアップする講座を設けることも、この企画の大きな特色です。

「子育て・家族支援者」の認定は NPO 法人〈あい・ぼーとステーション〉が行いますが、認定取得者は希望すれば、港区の一時保育者として登録されます。この4月から、港区は男女共同参画を推進する目的で、区が行う事業や委員会、審議会等のすべてに一時保育を付けることとなり、そこで活動できるのです。NPO と区との緊密な連携を大切にしていきたいと思います。

今回は受講者が全員女性でしたが、今後はシニア世代も含めて男性の参加も進めていきたいと考えております。団塊世代がまもなく定年を迎えます。職業生活で築いた豊かな経験を地域の子育て支援に活かしていくことも、これからの大切な生きがいとなるのではないのでしょうか。

港区で始めた新しい試みについてご報告できたことを嬉しく思います。近い将来、全国へと展開することも計画しています。各地で子育てや家族を支える活動をしている方々との連携が実現することを願っております。